

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(7月11日～7月17日)

2022年8月22日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 「Moody's」がベラルーシの債務不履行(デフォルト)を宣言(7/15)
- ベラルーシ国内でのオミクロン株 BA.5 系統への感染確認(7/15)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領との電話会談

(1)ベラルーシ大統領府発表

- ・政治・経済・防衛関連の問題を協議。
- ・カリニングラード経由での貨物輸送、ウクライナにおける「特別軍事作戦」の進捗状況、旧ソ連圏の状況、ロシアのエネルギー資源の欧州への輸出、ベラルーシの港湾の建設、ベラルーシ・ロシア両国の防衛の問題等を協議。

(2)ロシア大統領府発表

- ・両国間の貿易・経済面での協力に関する当面の問題を検討。
- ・カリニングラード州向け貨物輸送に対する制限措置を巡る状況と、それに対して両国が協調して講じることができる措置につき協議。

(7月11日 ベラルーシ大統領府、ロシア大統領府)

●軍事大学及び高級幹部学校修了者祝賀会

大統領は要旨以下を述べた。

- ・軍は、ベラルーシの主権と独立を保証する主要因であり、軍・実力機関のスタッフへのサポートと軍の近代化という政策を今後も維持。
- ・欧州は戦争を望んでいないものの、完全に米国のコントロールの下にあり、自国の利益や自国民の要望すらも顧みず行動。
- ・西側は、防衛の大義名分の下に戦力を増強し、ウクライナ・ベラルーシ経由でのロシア侵攻を画策。
- ・米国の覇権が失われないよう、ネオナチのイデオロギーやあからさまなファシスト体制が支持されている。そうした政策は、世界を勝者なき大戦争へと引き込むだけ。
- ・ベラルーシに対する国際的な圧力の高まりを受け、

集団安全保障条約機構(CSTO)や独立国家共同体(CIS)の複数の加盟国までもが様子見の立場を取っている。それでも、ベラルーシの政策が揺らぐようなことはなく、我々の見方や関心を尊重する国々との対話を維持している。

(7月12日 大統領府)

【外交】

●在ジンバブエ・ベラルーシ大使館が開館

(7月11日 在南アフリカ・ベラルーシ大使館)

●ベラルーシは上海協力機構(SCO)に加盟申請を提出

(7月12日 国営ベルタ通信)

●ベラルーシからの消防車調達を巡るジンバブエ議会による同国政府に対する追及

- ・ジンバブエの地方当局向けにベラルーシから消防車70台を総額3,200万ドルで調達することを巡り、ジンバブエ議会が同国政府を追及。
- ・ジンバブエ地方自治省は、本件調達がジンバブエ・ベラルーシ両国政府間協定により行われたため、通常の入札手続きを経ていない旨説明。
- ・これに対し議員からは、農村部にはしご車を調達すること自体がおかしいことにつき指摘あり。消防車の価格はベラルーシ国内調達価格の4倍以上。

(7月15日 Reform.by)

【内政】

●独立系労働組合に対する取り締まり

- ・7月13日、最高裁判所は「ベラルーシ無線電子産業労働組合」と「ベラルーシ独立労働組合」を閉鎖。

・14 日、シャラフ「ベラルーシ自由労働組合」会長が逮捕される。

(7 月 13 日、14 日 BPN)

●この 1 年間で 857 の非政府組織(NGO)が閉鎖

・そのうち 519 団体は法執行機関または裁判所の決定により閉鎖に追い込まれ、338 団体は自主的に閉鎖を決定。

・自主的な閉鎖の理由は、法的環境やベラルーシ国内の社会・政治状況が好ましくないこと、当局から頻繁に圧力がかかること等。

(7 月 14 日 非営利団体「OEEC & Lawtrend」、BPN)

●7 月 13 日現在の政治犯の数は 1,260 人

(7 月 13 日 人権団体「ヴァスナ(春)」、BPN)

【治安・軍事】

●ゴメリ州ジロビン地区地方隊が参謀部演習を実施

(7 月 12 日～14 日)

(7 月 12 日 国防省)

●ブレスト州イヴァノヴォ地区及び同州ストリン地区での軍用車両の移動の予告

・両地区当局は、7 月 15 日から 20 日にかけて、計画に基づく軍の準備関連措置の一環として、軍用車両の移動がある旨発表。

(7 月 14 日 BPN)

●ラトビア国家保安庁発表:ロシア・ベラルーシ両国の特務機関による、ラトビアでのスパイ募集の動き

・ロシア・ベラルーシ両国の特務機関は常々、機密情報にアクセス可能なラトビアの国家公務員や地方公務員をスパイとして募集することに関心を持ってきた。

・両国の特務機関は、ロシアによるウクライナ侵攻を踏まえて講じられた措置や北大西洋条約機構(NATO)の軍備増強等への対抗措置に関心あり。

・ベラルーシがラトビア・リトアニア両国民に対する無査証制度を導入した後、ロシア・ベラルーシ両国の特務機関は、ロシア・ベラルーシを訪問するラトビア人と接触してスパイとして採用することを試みている。その

際、ラトビアの国境警備隊員を装って接触がなされる。

・ラトビア国家保安庁はラトビア国民に対し、もしも国境で普段以上に厳しく所持品検査や尋問が行われ、ウクライナ情勢やラトビア情勢に対する見方、職場や役職、給与等、越境と無関係の質問をされるようなら通報するよう呼びかけ。

(7 月 11 日 Delfi.lv、BPN)

【経済】

●通貨バスケットへの人民元の追加

7 月 15 日から、ベラルーシの通貨バスケットに人民元が加わり、以下の比率となる:

ロシア・ルーブル 50%、米ドル 30%、ユーロ 10%、人民元 10%

(7 月 14 日 国立銀行(中央銀行))

●「Moody's」が、ベラルーシの債務不履行(デフォルト)を宣言

・国際的な信用格付け機関「Moody's」は、ベラルーシが対外債務に関して債務不履行(デフォルト)を発生させた旨発表。

・7 月 14 日、ベラルーシの 10 年満期のユーロ債「Belarus-27」に関する支払い総額 2,290 万ドルの支払い猶予期間が切れた。ベラルーシ財務省は、ベラルーシ・ルーブルで支払いを行ったため、ベラルーシの対外債務の保有者は、支払いを受け取れず。

・「Moody's」は、外貨建て国債のベラルーシ・ルーブルでの償還は債務不履行(デフォルト)」と強調。

(7 月 15 日 Zerkalo)

●2022 年 1 月～6 月における外貨の売買

自然人

売却	36 億 3,460 万ドル
----	----------------

購入	26 億 3,560 万ドル
----	----------------

売却と購入の差	9 億 9,900 万ドル
---------	---------------

法人

売却	13 億 2,190 万ドル
----	----------------

購入	19 億 1,630 万ドル
----	----------------

売却と購入の差	-5 億 9,400 万ドル
---------	----------------

(7 月 11 日 国立銀行(中央銀行))

●2022 年上半期の国家債務の総額

- ・1 月 1 日現在 228 億 6930 万ドル相当
(対 GDP 比 33.5%)
- ・6 月 1 日現在 234 億 8360 万ドル相当
(対 GDP 比 33.8%)
(7 月 11 日 財務省)

【抗議勢力の動き】

●ワルシャワに「自由ベラルーシ博物館」が開館

- ・「国家危機管理対策局(ラトウシコ元文化大臣)」の陣営が主唱したもの。
(7 月 17 日 BPN)

【その他】

●オミクロン変異株 BA.5 系統の確認

タラセンコ保健次官兼共和国主任衛生医は、要旨以下を述べた。

- ・ベラルーシ国内においてオミクロン株 BA.5 系統が確認されている。
- ・ベラルーシでは 9 月初旬に COVID-19 の感染拡大が予想される。特に感染した場合に重症化するリスクのある人々は、ワクチンを再接種するよう勧める。ブースター接種は 1 回で済む。
- ・ベラルーシでは一般国民向けのワクチン接種奨励のキャンペーンを継続。7 月 15 日現在、12 歳以上の人口の 70%近くがワクチンを接種済み。
- ・ベラルーシ国内の COVID-19 ワクチンは、2 回接種用としてロシアで開発された「スプートニク V」も中国で開発された「Vero Cell」も、またブースター接種用としてロシアで開発された「スプートニク・ライト」のいずれも、十分に在庫あり。
(7 月 15 日 保健省)

●国際近代五種連合(UIPM)は、ベラルーシ・ロシア両国の選手の欧州選手権及び世界選手権への参加資格を停止

(7 月 18 日 BPN)

(了)